



# 『姫路風土記の里』をたずねて

## 播磨国分寺周辺の史跡めぐり

●写真で見る昔のおもかげ

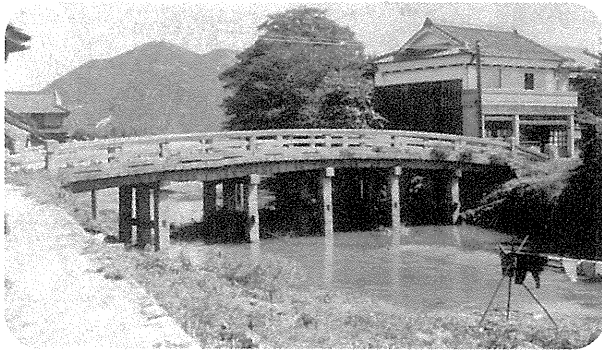
飾磨郡誌より▶

此の昔ふところには登りお方の御葬で焚た散放してゐた土葬は、誰も骨骨入あるといつてゐますは斯う言ひました。山のやうに南北に納なるにこの壇場山のなぐて東西に埋められは矢張り富子の墓うに辨明皇后が三禱になる時に雙勝を新場の野である」と、志は石留の墓を聞いてうとしましたが現在あつてはめしました。まては後に遊より七ろ赤土色の赤瓦の柱が並べられてあつた甲冑之千手塚と辯じたるものだとも言つてその板片すら容易に文甲入松雷を植ふるり三尺ばかりの所を下げましたのに二乃

壇場山古墳と陪塚 姫路最大の前方後円墳。針間国造の墓ではないかという。右端の小丘は陪塚。陪塚は古墳のむこう側にも1基残っている。



あまかばし 文政11年(1828)姫路藩の築造。総竜山石製。河合寸翁の経済たてなおして豊かになった藩が、山陽道を通る西国大名に威信を示すために築いたものようだ。カーブをとって木造橋のように設計してある。昭和47年9月9日、大水により中央部が崩壊したので解体された。現在、御着城跡に移築されている。



飾磨郡誌より▶

有馬道の一里塚 有馬道は姫路から真東へ裏六甲の谷間を通って京へ行く近道。昭和の初めにはバスが通っていたことがある。一里塚の跡は今も路傍にわずかにその跡をとどめている。

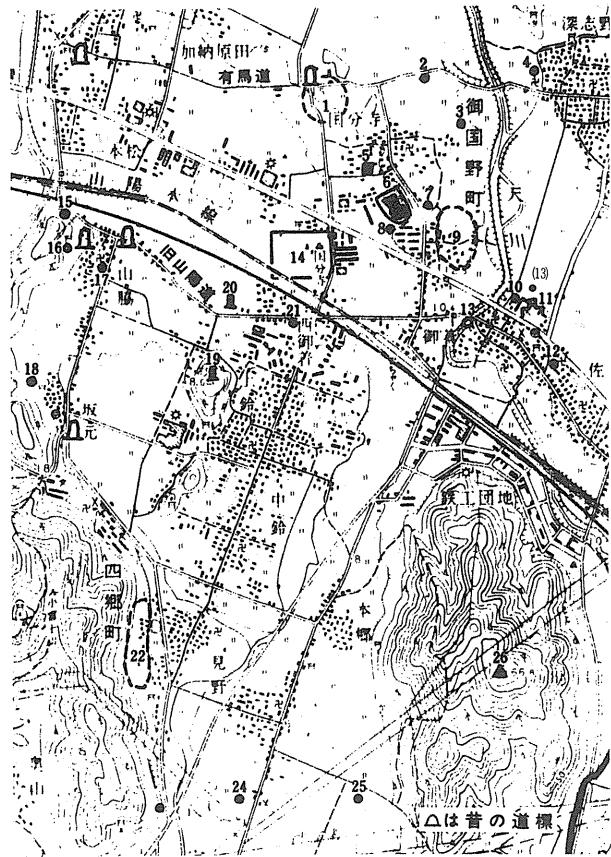




**播磨国分寺跡** 天平13年(741)聖武天皇<sup>みことのり</sup>の詔により建てられた。播磨は大国であるから寺の規模も大きく、地形からみて方3町あったと思われるが、今は方2町(約210m)が国の史跡になっている。塔の礎石からみてここには七重の塔がそびえていたと推定されている。

国分寺の周辺には弥生時代から明治に至るまでの各種各様の遺跡が密集している。なかでも壇場山古墳や播磨国分寺跡は大遺跡で国の史跡に指定され、国府に關係のある地名もあるところからこのあたりが古代播磨の政治・文化の中心地であったと思われる。戦国時代には御着城<sup>ごちやくじょう</sup>が築かれ、姫山<sup>ひめやま</sup>の城よりもここの方が武将の根拠地となって、歴史の舞台に大きくその名をとどめている。

- 1 国分尼寺参考地
- 2 一里塚跡
- 3 国分寺の構跡
- 4 大日さん(真福寺)の石棺仏
- 5 山之越古墳(第3古墳)
- 6 壇場山古墳
- 7 } 陪塚(第1・第2古墳)
- 8 }
- 9 国分寺台地弥生遺跡
- 10 黒田家廟所(チクゼンサン)
- 11 御着城跡
- 12 延命寺の板碑
- 13 天川橋(13)は現所在地
- 14 国分寺跡
- 15 寛延2年大水溺死菩提碑
- 16 印鑰神社
- 17 瑞岩院の石仏
- 18 宮山古墳
- 19 } 明治36年大演習記念碑
- 20 }
- 21 一里塚跡
- 22 見野古墳群
- 23 小窠塚
- 24 見野廃寺跡
- 25 長塚古墳
- 26 樋山(火の山)



**国分寺台地弥生遺跡** 各種の石器や弥生土器が採集される姫路第1の弥生遺跡。一部発掘調査が行われ竪穴住居跡、掘立柱の跡が発見された。

**壇場山古墳** 5世紀前半の代表的な前方後円墳。全長140m、周囲に濠をめぐらし県下第3位。後円部に大石棺が露出し、陪塚も今二つある。

国指定史跡。

**山之越古墳** やまのこし 一辺約55mの方墳。頂上に石棺があり、明治30年その中が調査され鏡・刀剣・玉などが出土した。国指定史跡。

**宮山古墳** 5世紀後半の築造。二つ平行する石室の下方にもう一つの石室がつくられていた。一つの石室から約40本の刀剣が出土し、耳飾りも朝鮮風のもの。県指定史跡。

**長塚古墳** ながつか 沖積平野に造られた古墳は早く開発が進み、その多くは消滅したが、この長塚はかろうじて残された。もとの形はよくわからないが、横穴式石室をとまなうようだ。副葬品もすぐれたものがある。

市指定史跡。

**見野古墳群** みの 麻生山の東ふもとには今、10基の古墳が残っている。8号墳の天井石は5mもあるので姫路の石舞台ともいわれ、5号墳は一つの封土に二つの横穴式石室がある。

**国分寺** 発掘調査により、南大門とそれに連なる築地塀、中門と回廊、金堂跡、僧房跡、北大門跡が発見された。今の建物は寛永16年(1639)に姫路城主になった松平忠明が建てたもの。庫裡も大きい。境内には県指定の宝篋印塔 ほうきょういんとう はじめ五智如来石仏、創建当時の礎石十数個、付近から運ばれてきた石棺や道標がある。

**国分尼寺参考地** 国分寺の北700mには礎石や奈良時代の古瓦が出土し、地形も四角に区切られている。各国の僧寺と尼寺の関係からみて、ここが播磨国分尼寺跡とする説が最も有力である。

**見野廃寺跡** 白鳳時代、この地の豪族が建てた私立の寺だと推定される。大部分は水田になってしまったが、薬師堂だけにおもかげをとどめている。

**印鑰神社** いんやく 神功皇后の印やカギを祀るという言い伝えがあるが、国庁の重要な役所が近くにあったことを物語るのであろう。

**火の山** 築紫から都へ急変を知らすノロシ台がおかれた山。昼は煙夜は火をたく。この西の広畑区京見山から受け、加古川市日岡へ送った。

**国府** 国分寺のすぐ西の字「鴻ノ塚」・四郷町本郷あたり、四郷町山脇の東方あたりという説があるが、まだ遺跡は発見されていない。

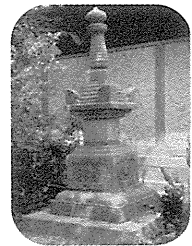
**御着城** 永正16年(1519)赤松の一族小寺氏が築城して姫山より移った。天正年間、秀吉に攻められ落城。その間60余年。北は4重の堀をめぐらしていた。

**御着の宿** 姫路——加古川の「あい しゆく間の宿」。本陣は170畳もある天川氏の大邸宅で明治年間まであった。

**黒田家廟所** 黒田家は重隆が御着城主小寺氏に仕え、しげたか職隆——もとたか孝高(如水)と続くが孝高が秀吉、家康に仕えてその子孫は福岡城主になった。享和2年(1802)用材を福岡から運んで営んだもの。市指定史跡。



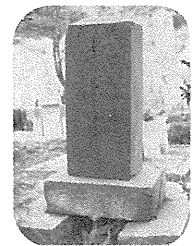
延命寺の板碑 姫路では珍しい形のもの。貞和元年とよめる銘がある。



国分寺の宝篋印塔 室町時代の作。各部の石が全部そろっている。県指定文化財



大日さんの石棺仏 家形石棺の蓋の裏に仏像を刻む。ここには2基建っている。



小笹塚の碑 白浜の石田五芳が建てた句碑《はつしぐれ猿も小笹をほしげなり》



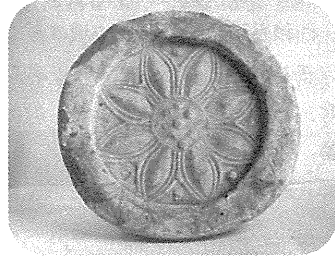
壇場山古墳の石棺



第2古墳の石棺



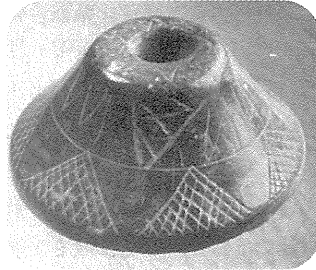
播磨国分寺瓦



同尼寺瓦



御着本陣の御関札 大名  
など泊るときに立てた  
札。



ぼうずいしや  
紡錘車 (長塚古墳出土)糸つむぎ  
するハズミ車。



鏡の断片 (山之越古墳出土)縁に  
はシカや鳥が走っている文様がある。



御着標柱 明治33年のもの。  
姫路・岡山など各地  
への距離が書いてある。